

入浴介助におけるスキンテア予防への取り組み

～他施設の取り組みを参考にして～

医療法人千徳会 桜ヶ丘病院
一久誠 南村幸子 林好加 成川暢彦

【はじめに】

当病棟では、重症意識障害や神経難病で日常生活上、介助を必要とする患者が多く、ケアの一つとして入浴介助は介護福祉士が担っている。安全な介助を提供することが求められるが入浴時皮膚の露出も多いため、スキンテアを起こすリスクが高い。

病棟では、スキンテアの要因のひとつである75歳以上の割合が72.9%であり、リスクが高い患者が多く低栄養、脆弱な皮膚、拘縮など様々な要因も加わり昨年、スキンテアのインシデントが、48件起こり、うち19件は入浴時に関連したものであった。

そこで今回、入浴介助において患者の移乗、更衣、洗身の一連のケアの中で問題点がないか、修正できる点がないかを話し合い、又、今までのケア方法以外に新たな介助方法がないのかと考え、4カ所の施設への聞き取りを行い結果を参考にし、取り組んだので報告する。

【方法】

1.研究期間 2022.8月～2022.11月

2.研究方法

- ①他施設への聞き取り調査を行い、結果をスタッフと共有する
- ②スキンテアの勉強会、基本的な介助方法、注意点、高リスク患者の予防策を検討する
- ③看護師の協力を得てスキンテア要因を点数化し、高リスク患者を4名選出する
- ④アセスメントシートを作成し、高リスク患者の皮膚の状態を記載する
- ⑤ミニカンファレンスを行い介助方法が適正か、新たな注意点について話し合う
- ⑥取り組み前後のインシデント件数の検証し、スタッフへ聞き取り調査を行う

	年齢	疾患	皮膚の状態	スキンテア要因	部位	件数
A氏	87	脳梗塞後遺症	乾燥・紫斑・ティッシュ・拘縮・麻痺	更衣 移乗	右前腕	1件
B氏	99	慢性心不全 慢性腎不全	乾燥・鱗屑・紫斑・ティッシュ・拘縮	不明（移乗後に発見）	左手背	1件
C氏	76	脳梗塞後遺症	乾燥・紫斑・ティッシュ・麻痺・爪	更衣・移乗後発見 ストレッチャー柵	右肩 右腕	2件
D氏	75	遷延性意識障害 低血糖脳症	乾燥・鱗屑・ティッシュ・拘縮・麻痺・爪			0件

【倫理的配慮】

患者が特定できないようにプライバシーに注意し得たデータは本研究以外では使用しない

【結果】

他施設の聞き取りは、グループホームが1施設、特別養護老人ホームが3施設で行った。各施設とも家族に説明、協力を依頼し、衣服を調整することで皮膚の露出を最小限にしたり、スタッフへの勉強会や個別指導などが行われていた。4施設に共通していたことは、スキントエアリスクの高い利用者について申し送りノートなどで情報共有が行われていた。

当病棟では、申し送り時にスキントエアの高い患者を読み上げて注意喚起を行うといった口頭での共有であった。そこでスタッフ間で話し合い、誰が見てもわかるよう、独自のアセスメントシート（以下シート）を作成した。

シートは業務の負担にならないよう、チェック方式とし、部位は丸を付けて一目でわかるようにし入浴前に皮膚の状態を観察したことや予防策も記載した。対象者は、看護師の協力を得て、スキントエアの高リスク患者を4名選出し、シートを患者ごとに冊子にした。

実際、スタッフ個々の介助方法を見ると、移乗方法がスタッフによって違う、泡立てないタオルで清拭する、更衣時に上肢を掴むなど、基本的な予防策が行われていない場面もみられた。スタッフの介助方法の違いによりスキントエアを起こす可能性があったため、再度勉強会を実施し、高リスク患者4名の予防策を話し合い、ケア方法を統一した。また、週1回、カンファレンスを行い、介助方法や注意点などを評価し、予防策を見直した。

A氏の一例では、A氏は右手を不意に動かす事があり、更衣時にスキントエアを起こす事があったため、介助の際は必ず1名が右手を支える様に保持し、不意に動かしてどこかにぶつけることのないようにケアを統一した。又、右手の動きが激しく、更衣時に紫斑のある左上腕をタオルで保護するなど個別的な予防策を行い対応した。

シートは、前回の入浴時から皮膚の変化がないかを確認したり、スキントエアのリスク部位に触れる際に注意することにつながり、継続的に予防する事が出来た。その結果、スキントエア発生は、4件から1件に減少した。又、スタッフの聞き取りでは、「スタッフ間で注意しあえる環境になった」「手技や危険防止の声かけを行うようになった」など、介助方法以外の意見も聞かれた。

	予防策	取り組み後のスキントエア件数
A氏	・背部にバスタオルを敷く ・紫斑部位の確認・タオルで保護	発生なし
B氏	・皮膚が直接あたらないようにタオル・クッションを挟む ・上肢をタオルで保護	発生なし
C氏	・麻痺側の上肢の位置に注意・タオルで保護 ・大きめの服を家族に依頼する	発生なし
D氏	・右上肢の体動注意 ・直接つかまない（タオルを巻き）	1件 （脱衣後、洗面台にあたる）

【考察】

今回、スキンテアを予防するため、基本的な介助方法以外に有効な取り組みはないか、自分たちで出来ることはないかと考え、他施設の聞き取り調査を行った。その結果からシートを作成し、個別的な対策を立てて介入したことでスキンテアの発生を減少させる結果となった。

シートは、チェックと丸を付けるといった簡易的な方法にしたことで、皮膚の脆弱な部分が目分で分かり、工夫した点なども記載し、口頭だけでは伝えきれない詳細な情報が共有できるツールになった。また、冊子にすることで経時的な変化や、注意しなければいけない点が明確となり 観察の技術向上と予防的なケアにつながったと考える。

しかし、今回スキンテアを完全に防ぐことはできなかった。一般論として「スキンテアを完全に予防することは困難であり、日常的にできる予防策を講じることが必要である」と言われているように、今回の取り組み後もスキンテアの発生を完全に防ぐことは困難であった。しかし、スキンテア予防に対して観察力が向上し、又、個別的な予防策を継続することが重要である事を学んだ。さらにスタッフの意見にあったように、注意しあえる環境作りも必要であると考ええる。

他施設の取り組みは、基本的な対応として病棟でも行われている事など重なる点もあったが、直接聞き取りを行うことで具体的な対策を知り、同じ悩みや課題を持っていることも分かった。今後も地域の施設と横のつながりを持ち、課題の解決に努めていきたいと思う。

【おわりに】

今回、4施設での聞き取り調査を行い、自分たちのケアを振り返る機会となり、今後もスタッフでスキンテア予防への取り組みを行う様、知識の習得とケアの充実に向けて勉強会を定期的に行い実践と情報共有を行っていきたい。